

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和04年06月24日(金)

事務事業		ごみ減量・資源リサイクル事業		担当課	環境衛生課	担当係	業務係	管理番号	3909	
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務					
	中項目	3	人と自然にやさしいまちづくり	根拠法令 個別計画等	深谷市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画					
	小項目	2	環境衛生の推進							
	主要プロジェクト	0	(未使用)							
事業概要		ごみの減量化とリサイクル活動の推進を行う								
目的 ※何のために		資源物の再利用の促進、廃棄物の減量化を図る								
対象 ※誰・何を対象に		日常生活から排出される資源ごみを集団回収する登録団体								
手段 ※どのように		奨励金の交付								
成果 ※何を求めるか		自主的な資源回収活動の定着促進とこれに伴う家庭から排出されるごみの縮減								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input checked="" type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他()								
事務事業を 構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額（円）		
		一般会計	4	衛生費	2	清掃費	1	清掃総務費	ごみ減量・資源リサイクル事業	5,427,915
本事業の 主な業務		・リサイクル活動推進奨励金交付					・			
		・					・			
		・					・			
		・					・			
		・					・			
		・					・			

2. 事業費（投入コスト）

単位：円

区分		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度別計画							
事業費	予算（現額）	13,202,000	12,306,000	12,286,000	11,394,000	9,286,000	9,104,000
	決算額	10,481,771	9,679,348	8,520,509	4,334,496	5,427,915	0
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	10,481,771	9,679,348	8,520,509	4,334,496	9,104,000
人件費	従事職員数（人）	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
	人件費相当試算※	3,889,500	3,891,000	3,930,500	4,068,000	3,880,958	4,065,674
総事業費試算		14,371,271	13,570,348	12,451,009	8,402,496	9,308,873	13,169,674

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
	実績値									
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	リサイクル奨励金交付団体数	目標値	件	365	370	375	380	385	390	
		実績値		367	376	357	253	310	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所		平成29年度を基に毎年5団体増える目標とした。 / 決算における交付団体数							
	実績値の算出式									
成果指標 1	リサイクル奨励金交付額	目標値	千円	12501	12000	12000	12000	12000	12000	
		実績値		10241.77	9679.35	8517.37	4334.49	5427.92	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所		平成30年度予算における見込金額を目標とした。 / 決算における奨励金の交付額							
	実績値の算出式									
成果指標 2	廃棄物のリサイクル率	目標値	%	7	16.9	17	17.1	17.2	17.3	
		実績値		16.8	16	15.84	15.24	15.5	0	
	目標値の算定根拠/実績値の出所		一般廃棄物処理基本計画に伸率を算出し有害・有価物、集団回収合計に乘じ目標とした。 / リサイクル率＝資源物小計÷深谷							
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	C	コロナ禍の影響により一時的にリサイクル奨励金交付団体の活動数が減少し目標値には届かなかったが、そのような状況下においても再資源利用の推進が図られた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	C	コロナ禍の影響により一時的にリサイクル奨励金交付団体の活動数が減少し、奨励金の交付額も目標値には届かなかったが、リサイクル推進に対する奨励金交付団体の活動成果が見られた。
			評価者 係長 荻原 康裕

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	C	概ね適正に執行できた。
			評価者 係長 荻原 康裕

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和2年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	リサイクル活動奨励金制度について、広報等で市民に周知することにより新規団体の登録を促す。 また、「ごみの分け方・出し方」チラシを作製及び配布し、市民への啓発活動を行う。
達成状況及び その効果	リサイクル活動奨励金制度を広報でPRし、新規団体の募集を行った。また、「ごみの分け方・出し方」チラシを作成し、市民に広く分別ルール の啓発を行った。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	ごみ減量・資源リサイクル事業	担当課	環境衛生課	担当係	業務係	管理番号	3909
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直しして継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者 課長 洪澤 滝人					

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和4年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	ごみの減量化を進めるため、リサイクル対象品目の見直しを行っていく必要がある。
令和5年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	ごみの減量化を進めるため、リサイクル対象品目の見直しを行っていく必要がある。

8. 評価指標グラフ

